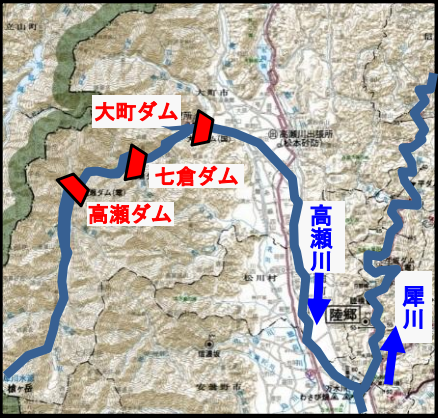


大町ダム等再編事業の概要

令和8年7月28日

北陸地方整備局 千曲川河川事務所

大町ダム等再編事業位置図



大町ダム（国土交通省）
竣工年 昭和61年
形式：重力式
コンクリートダム
堤高：107.0m
堤頂長：338.0m
堤体積：765千m³
集水面積：193.0km²



国土交通省 北陸地方整備局 大町ダム管理所提供

七倉ダム（東京電力RP（株）
、国土交通省 共同管理）
竣工年 昭和54年
形式：ロックフィルダム
堤高：125.0m
堤頂長：340.0m
堤体積：7,380千m³
集水面積：150.0km²



東京電力RP（株）パンフレットより

高瀬ダム（東京電力RP（株）
・国土交通省 共同管理）
竣工年 昭和54年
形式：ロックフィルダム
堤高：176.0m
堤頂長：362.0m
堤体積：11,590千m³
集水面積：131.0km²

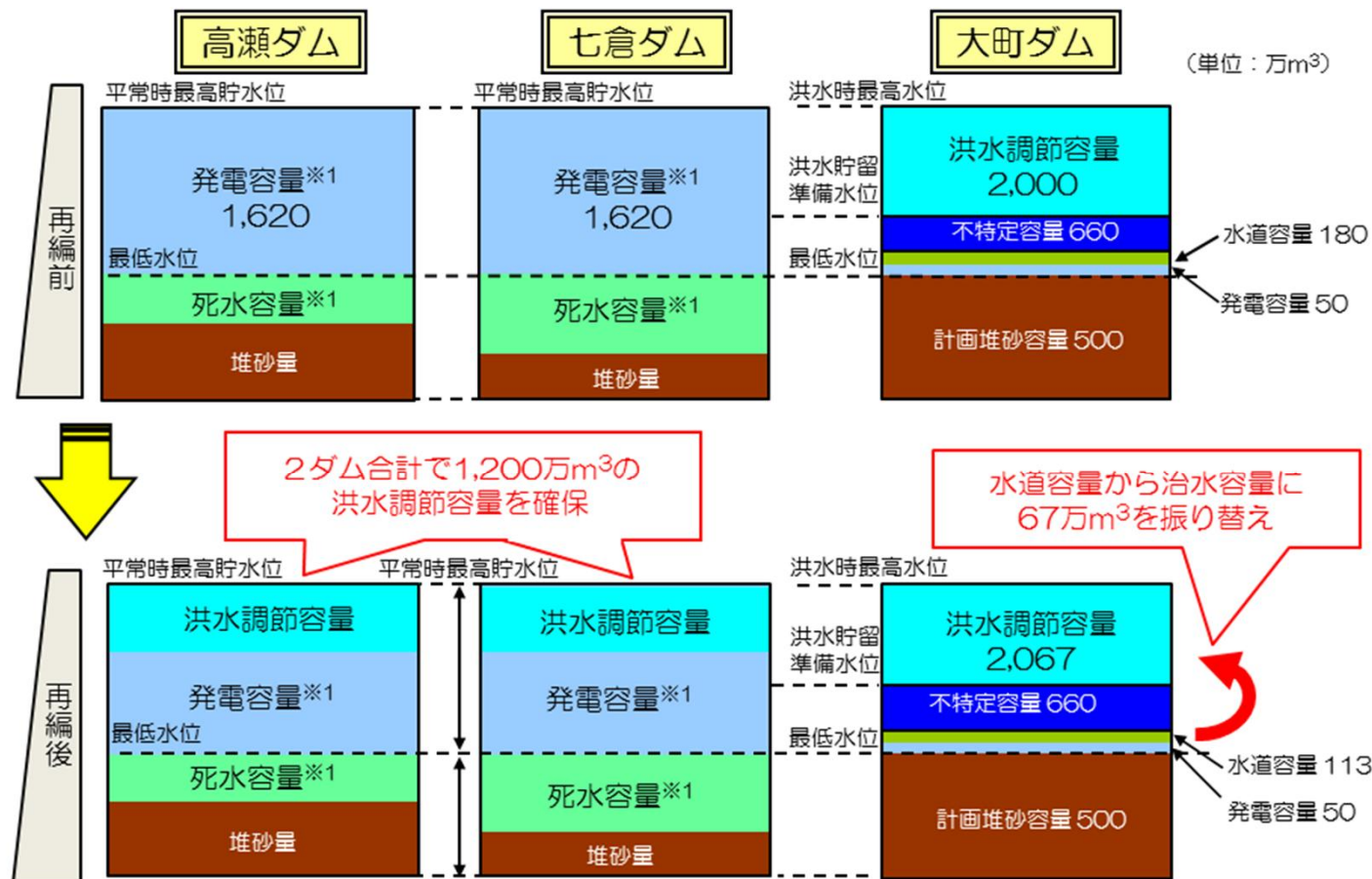


東京電力RP（株）パンフレットより

大町ダム等再編事業の内容（洪水調節）

○高瀬ダム、七倉ダムの発電容量のうち1,200万 m^3 、大町ダムの水道容量のうち67万 m^3 を洪水調節容量に振り替え、新たに1,267万 m^3 の洪水調節容量を確保。これに大町ダムの洪水調節容量2,000万 m^3 を合わせ3,267万 m^3 （25mプール約54,500杯分）の洪水調節容量を確保。

大町ダム等再編事業 容量再編イメージ図



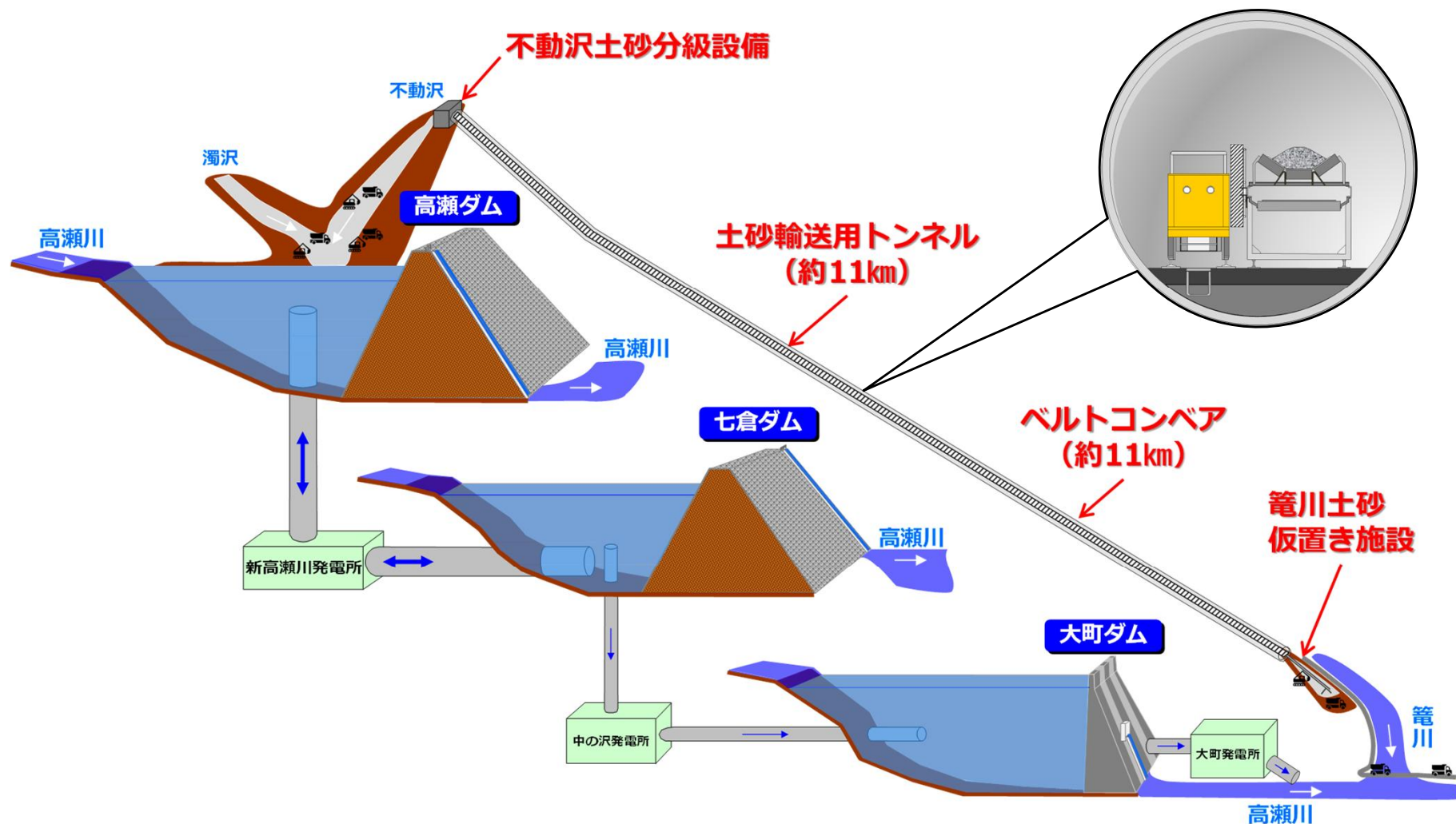
※1：将来の堆砂を許容 ※2：図の堆砂量は再編直後のイメージ

大町ダム等再編事業の内容（土砂対策）

○高瀬ダムの堆砂対策として、将来にわたって、確保した洪水調節容量と発電容量を維持することを目的として、高瀬ダム上流から大町ダム下流までの間において土砂輸送用トンネル（約11km）を整備し、輸送設備（ベルトコンベア 約11km）及び土砂分級設備、土砂仮置き施設の整備を行う。

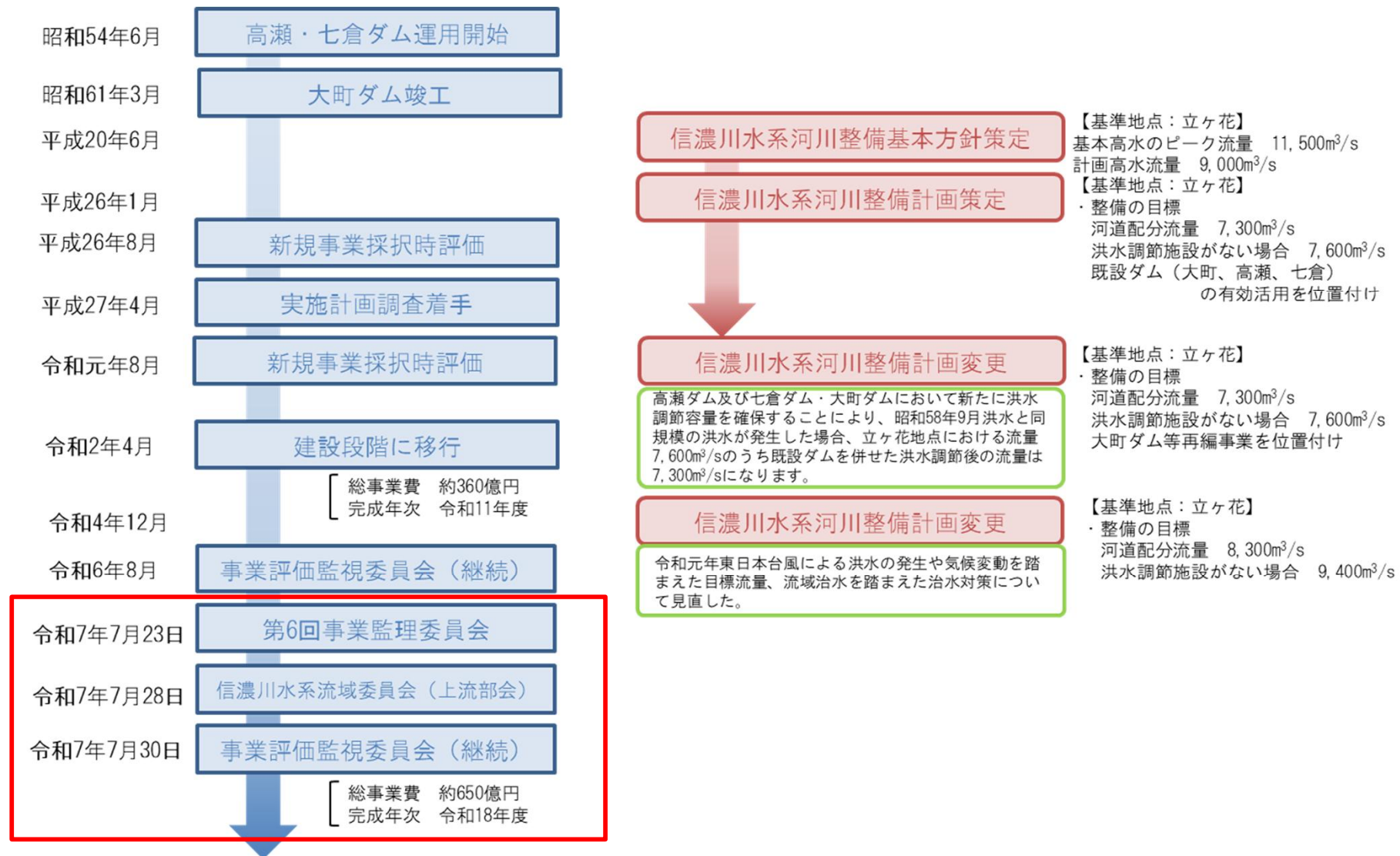
大町ダム等再編事業 土砂対策イメージ図

土砂輸送用トンネル・ベルトコンベア



大町ダム等再編事業の経緯

- 大町ダムは昭和61年3月に完成。平成26年1月に信濃川水系河川整備計画を策定し「既設ダムの有効活用」を位置づけ、平成27年4月より実施計画調査に着手。その後、令和元年8月に信濃川水系河川整備計画を変更し「大町ダム等再編事業」を位置づけ、令和2年4月に「建設段階」へ移行。
- 令和7年7月に信濃川水系流域委員会（上流部会）にて総事業費（360億円→650億円）及び完成年次（令和11年度→令和18年度）を見直した。



大町ダム等再編事業 事業進捗状況

○大町ダム等再編事業の事業進捗率は用地取得が81%（30ha/37ha）土砂輸送トンネル工事が7.7%（833m/10,800m）、土砂分級破碎設備の整備が未着手となっている。



（令和8年3月末時点）

測量地質 施設設計 事業計画	測量	地質	土砂対策設備設計	ダム運用計画検討	管理施設等設計
	環境・水理水文等調査				
用地取得（37ha） （内、国有地7ha） （内、民地30ha）	81%				
洪水調節容量取得 （高瀬ダム・七倉ダム） （大町ダム）	100%				
ダム本体及び 関連工事	洪水調節関係				
	ダムコン製作100%			設置・調整100%	
	土砂輸送トンネル 全延長L=10,800m				
	掘削完了 L=833m	進捗率：7.70%		掘削残 L=9,967m	
	土砂分級破碎設備				
	付帯設備 0%	不動沢土砂分級設備 0%	箆川土砂仮置き施設 0%	輸送設備 0%	

■ - 測設関係

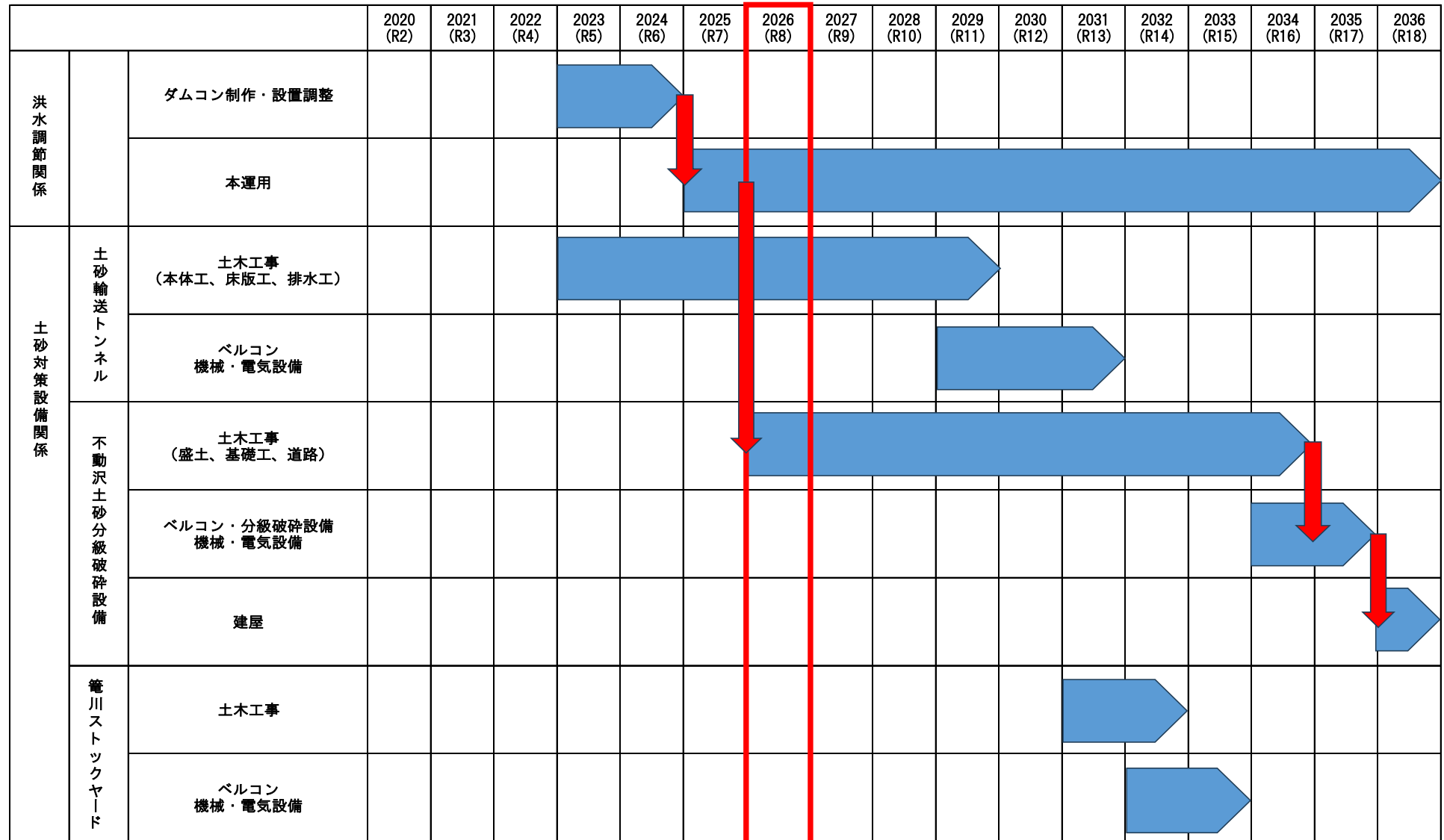
■ - 用地取得等

■ - 本体関連

※ 土砂輸送トンネルは令和8年6月末時点の進捗

大町ダム等再編事業の工事工程（予定）

○工事工程

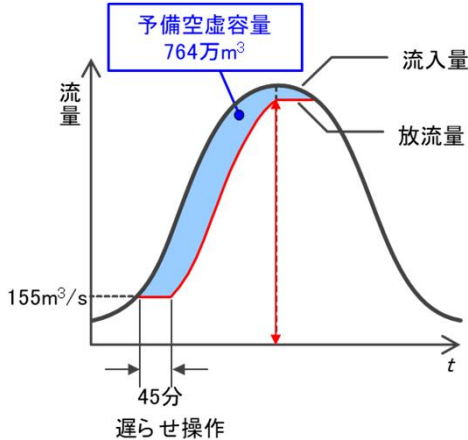
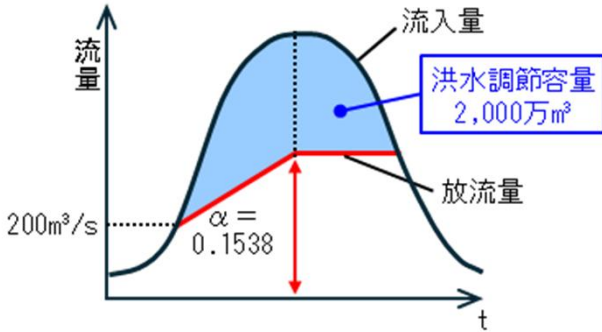
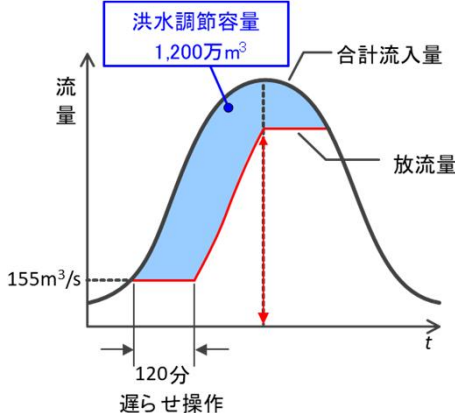
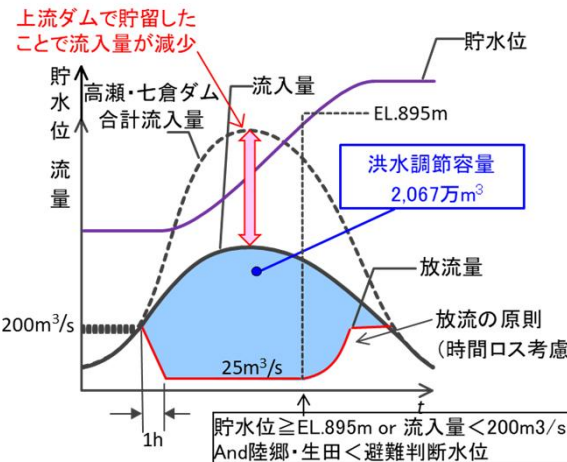


※ 工程は現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合がある。

大町ダム等再編事業 新たな洪水調節操作について

○R 7 年 8 月より高瀬・七倉・大町ダムの 3 ダムが連携した、新たな洪水調節操作の運用を開始。

- ・大町ダムの操作方式を一定量一定率方式から鍋底操作方式に変更。
- ・高瀬 2 ダム（高瀬・七倉）の 45 分遅らせ操作を 120 分遅らせ操作に変更。

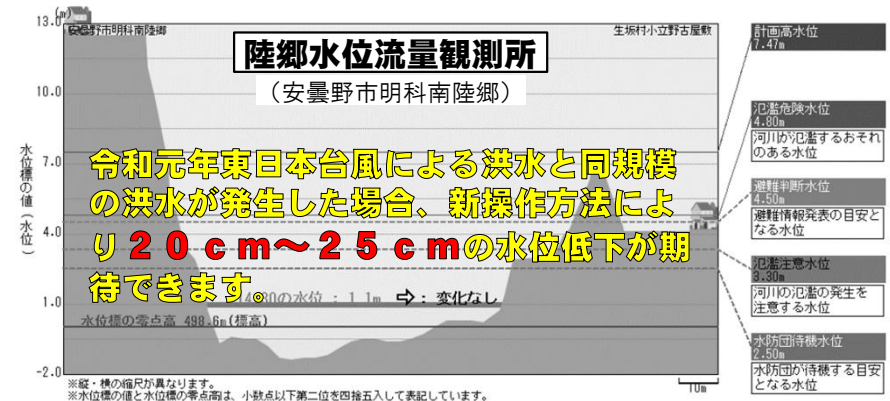
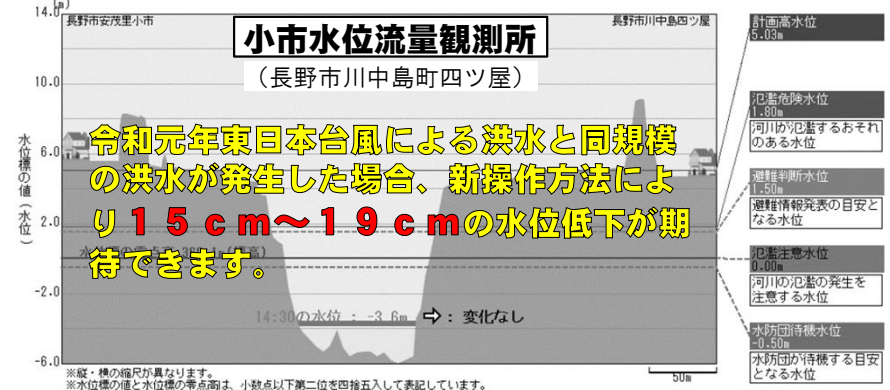
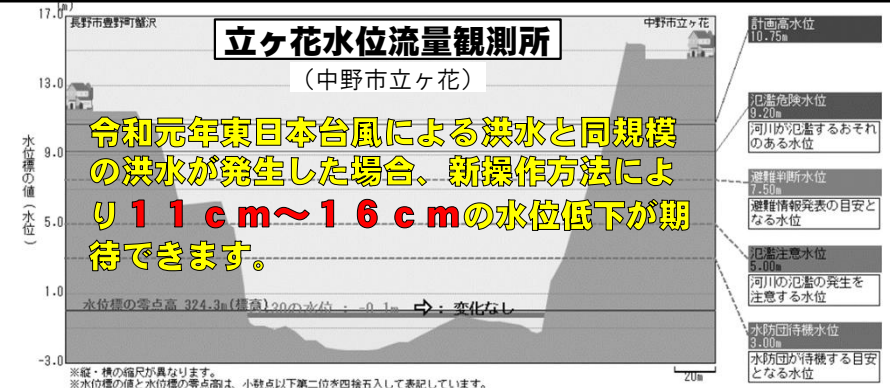
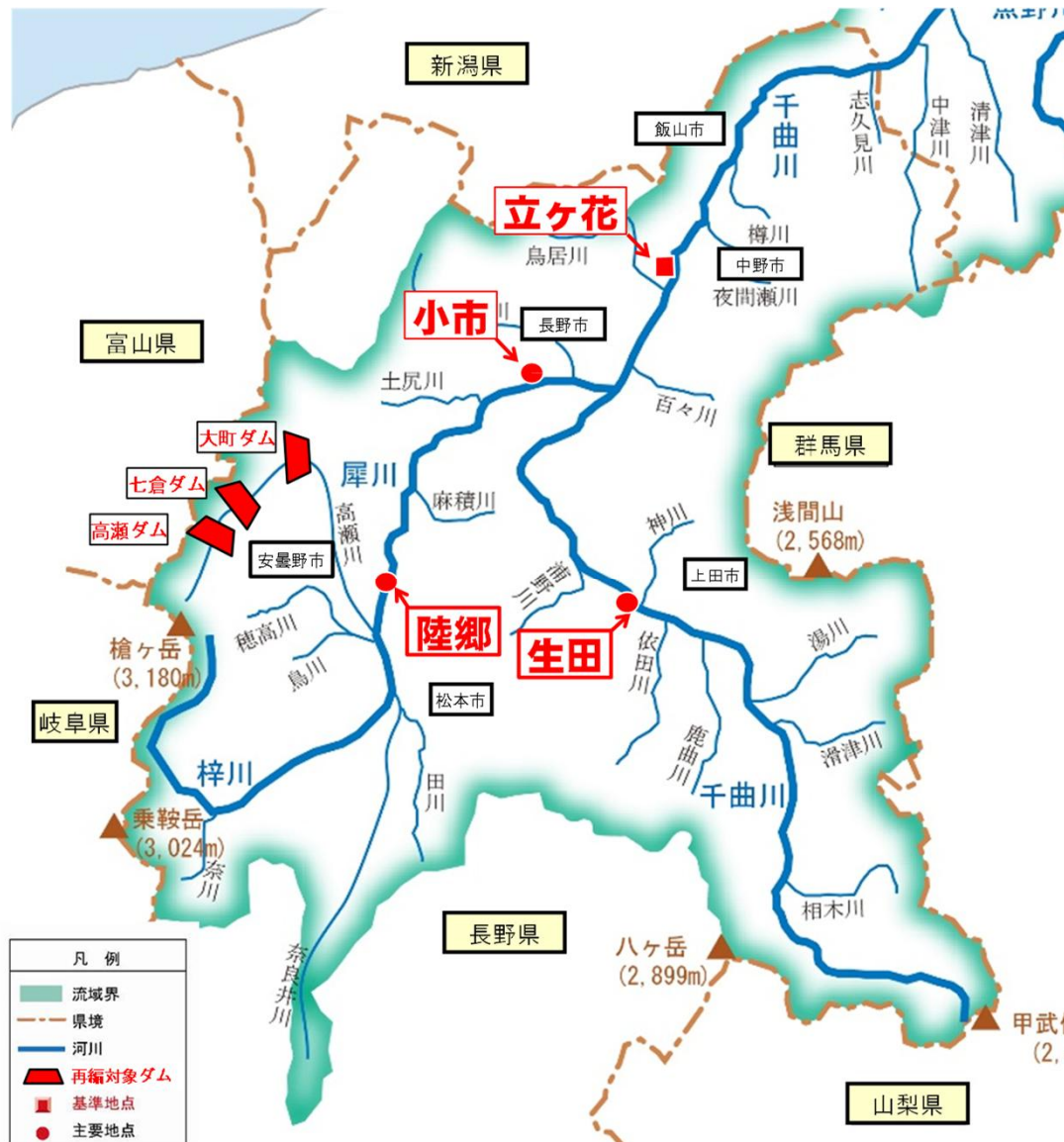
	高瀬2ダム(高瀬・七倉)	大町ダム	備 考
旧操作方法	 予備空虚容量 764万m^3 流入量 放流量 155m^3/s 45分 遅らせ操作	 流入量 洪水調節容量 2,000万m^3 放流量 200m^3/s $\alpha = 0.1538$	【高瀬川2ダム】 ・洪水量: 155m^3/s ・45分遅らせ操作 ・予備空虚容量: 764万m^3 【大町ダム】 ・洪水調節開始量: 200m^3/s ・一定量一定率方式 ・洪水調節容量: 2,000万m^3
新操作方法	 洪水調節容量 1,200万m^3 合計流入量 放流量 155m^3/s 120分 遅らせ操作	 上流ダムで貯留したことで流入量が減少 貯水位 高瀬・七倉ダム 合計流入量 流入量 放流量 洪水調節容量 2,067万m^3 200m^3/s 25m^3/s 1h 放流の原則 (時間ロス考慮) 貯水位 $\geq$ EL.895m or 流入量 $<$ 200m^3/s And 陸郷・生田 $<$ 避難判断水位	【高瀬川2ダム】 ・洪水量: 155m^3/s ・120分遅らせ操作 ・洪水調節容量: 1,200万m^3を上限に確保 【大町ダム】 ・洪水調節開始量: 200m^3/s ・鍋底操作方式 ・洪水調節容量: 2,067万m^3

大町ダム等再編事業 新操作方法の効果（試算）

- 新操作方法（25m³/s鍋底操作）の効果試算では、令和元年東日本台風による洪水と同規模の洪水※¹が発生した場合、陸郷水流量観測所（犀川）で20cm～25cm※²、小市水位流量観測所（犀川）で15cm～19cm※²、立ヶ花水位流量観測所（千曲川）で11cm～16cm※²の水位低下が期待できると推定。

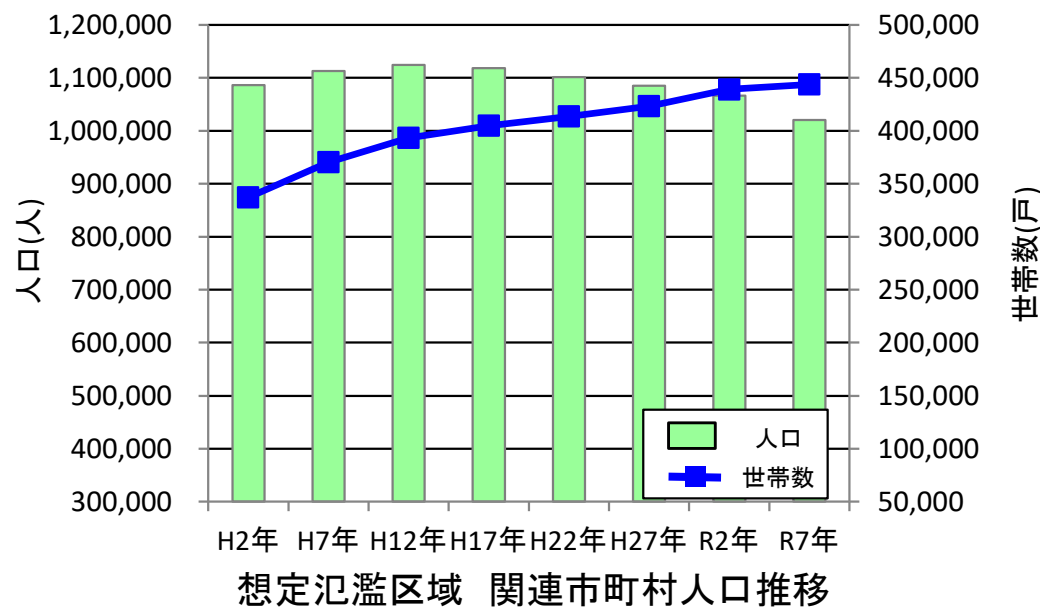
※¹：計画の降雨波形（S34.8型、S57.7型、H18.7型）を令和元年東日本台風による洪水規模まで引き延ばした流出計算の値

※²：水位低減量の算定方法は旧操作方法による流出計算結果と新操作方法（25m³/s鍋底操作）による流出計算結果の差分



事業を巡る社会情勢等

- 千曲川流域の想定氾濫区域関連市町村（飯山市、中野市、長野市、須坂市、千曲市、上田市、生坂村、安曇野市、松本市、小布施町、坂城町、野沢温泉村、木島平村）の人口は100万人程度と減少傾向にある一方、世帯数は増加傾向にある。
- 千曲川流域では、北陸新幹線、長野自動車道、上信越自動車道などの高速交通機関をはじめとした交通基盤整備により、広域交通体系の結節点としての拠点性、地域優位性を持ち、県都長野市をはじめ、松本市や上田市等の地方都市を有している。
- このように千曲川流域は、人、経済、文化等の幅広い交流・流通の拠点であり、今後さらに発展が見込まれる重要な地域である。



※H2年～R2年までは国勢調査結果から整理
 ※R7年は国勢調査結果速報値から整理

